



東京観光財団・台東区共同研究より

これってオーバーツーリズムなの？ ～観光推進と持続可能な観光地域づくりのバランスを考える～

2025年 2月 14日

東京の観光振興を考える有識者会議

じゃらんリサーチセンター
研究員 長野瑞樹



じゃらんリサーチセンター 研究員 長野 瑞樹 (ながの みずき)

大手自動車メーカーを経て、2019年に株式会社リクルート入社
人事部門で人材戦略、人材開発、組織開発等を経験後、
2021年にじゃらんリサーチセンターへ異動

岩手県のエリアプロデューサーとして多くの観光・地域振興支援に携わる。
2023年に研究員として着任

<研究テーマ>

- ・オーバーツーリズム
- ・まち歩きによる地域消費額向上
- ・スポーツツーリズム
- ・体験・アクティビティの地域価値

「じゃらんリサーチセンター」について

変わる地域の、力になります。

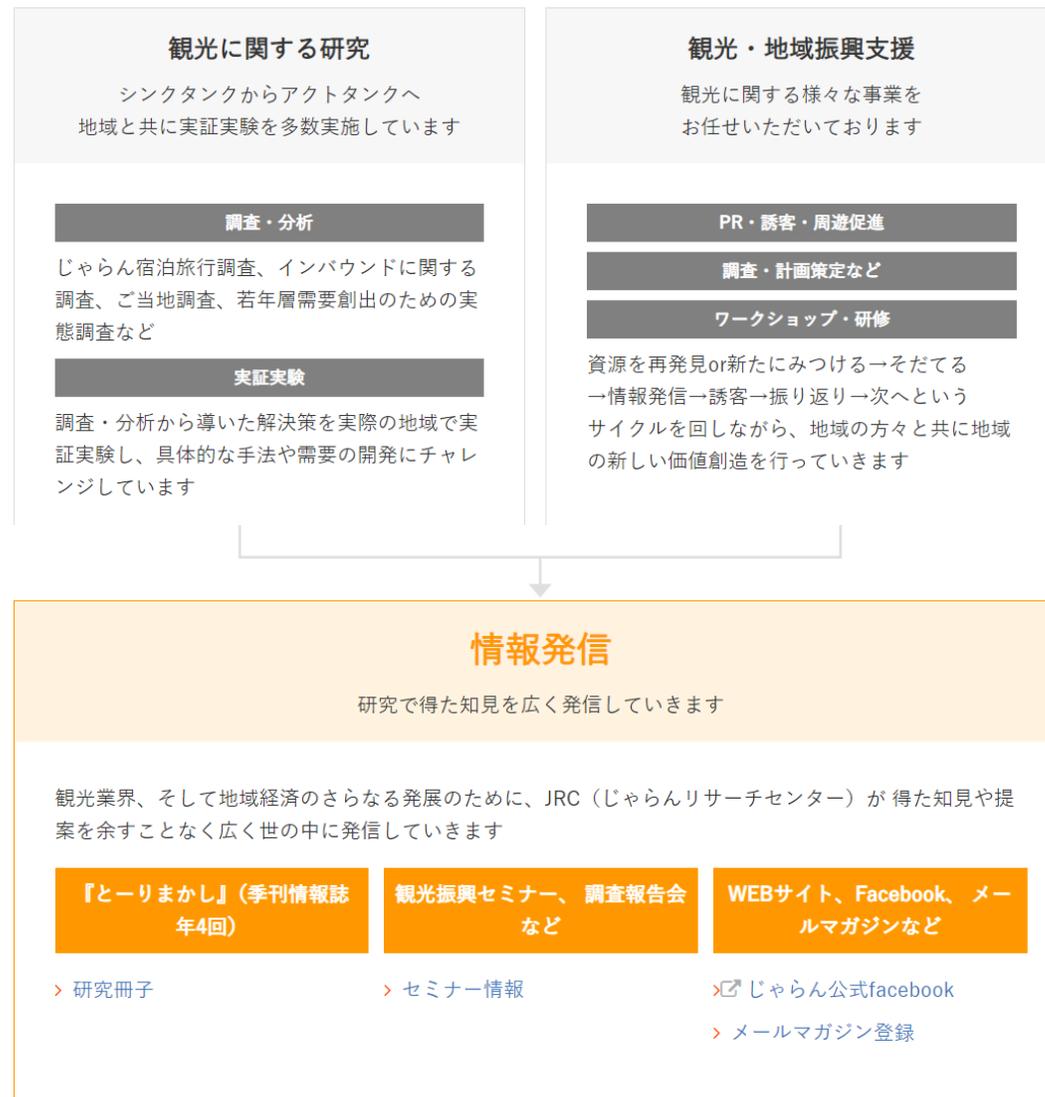
世の中が変わっても、地域が元気であり続け、
いま以上に輝くために、守ることと、変えること。
私たちは、日本中の「変わる決意」に伴走します。

JRCのメソッド 1
みつける
今ある魅力の再発見

JRCのメソッド 2
そだてる
新しい魅力の形成

JRCのメソッド 3
つたえる
伝達力の強化

- 1 今ある魅力の再発見** -みつける-
世界中、他のどこでもない、その地域「ならでは」の魅力丁寧に探し、見つけます。
- 2 新しい魅力の形成** -そだてる-
地域らしさを活かしつつ、世の中の兆しをとらえ、時代に合った新しい魅力を育てることに徹底伴走します。
- 3 伝達力の強化** -つたえる-
育てあげた地域の魅力を効果的に発信・伝達することで、地域ブランドを確立し、目に見える成果を実現します。



1. 「オーバーツーリズム」とは一体何なのか

昨年度に実施したオーバーツーリズム研究で分かったこと

- 東京観光財団、台東区、リクルートの3者で共同研究
- 事例研究、データによる都市間比較、人流データ分析、住民アンケート、旅行者アンケートなど、さまざまな側面から、台東区におけるオーバーツーリズムを検証
- オーバーツーリズムという言葉は観光に関連する幅広い問題を包含しており、発生する事象は地域によって全く異なるので地域で何が起きているのか、しっかりと捉えることが重要
- これからの観光振興は、旅行者だけでなく住民にも焦点を当て、観光が住民の暮らしにどのような影響を与えるかを考えていく必要がある



「オーバーツーリズム」という言葉について

- ① オーバーツーリズムは**状態を表す言葉**であり、問題の原因ではない。同じような状態の地域があったとしても、根本的な原因は全く別のものである可能性がある
- ② オーバーツーリズムは**主観的な表現**であり、その程度を定量的に定義することは難しい
- ③ オーバーツーリズムは**比喩的表現**で、住民の観光に対するネガティブ感情を過剰に表した言葉であり、必ずしも混雑が観光地のキャパシティを超過しているわけではない



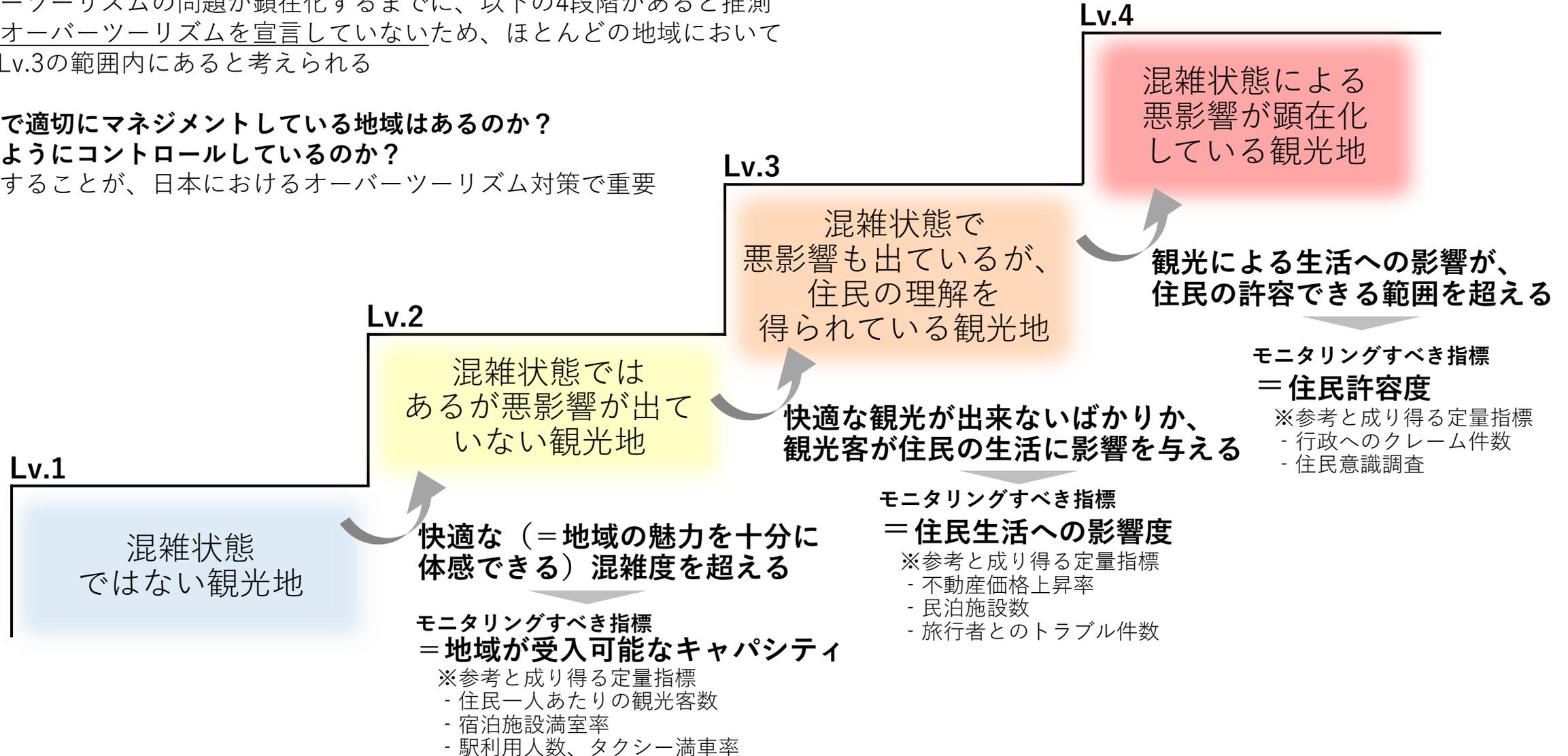
「オーバーツーリズム」という言葉は使用するべきではないかもしれない
但し、観光客の増加により問題が発生していて、
住民運動に発展しているケースがあるのも事実

→この問題から目を逸らさずに向き合い続けていく必要がある

(1) 影響の顕在化レベル

オーバーツーリズムの問題が顕在化するまでに、以下の4段階があると推測
日本はオーバーツーリズムを宣言していないため、ほとんどの地域において
Lv.1～Lv.3の範囲内にあると考えられる

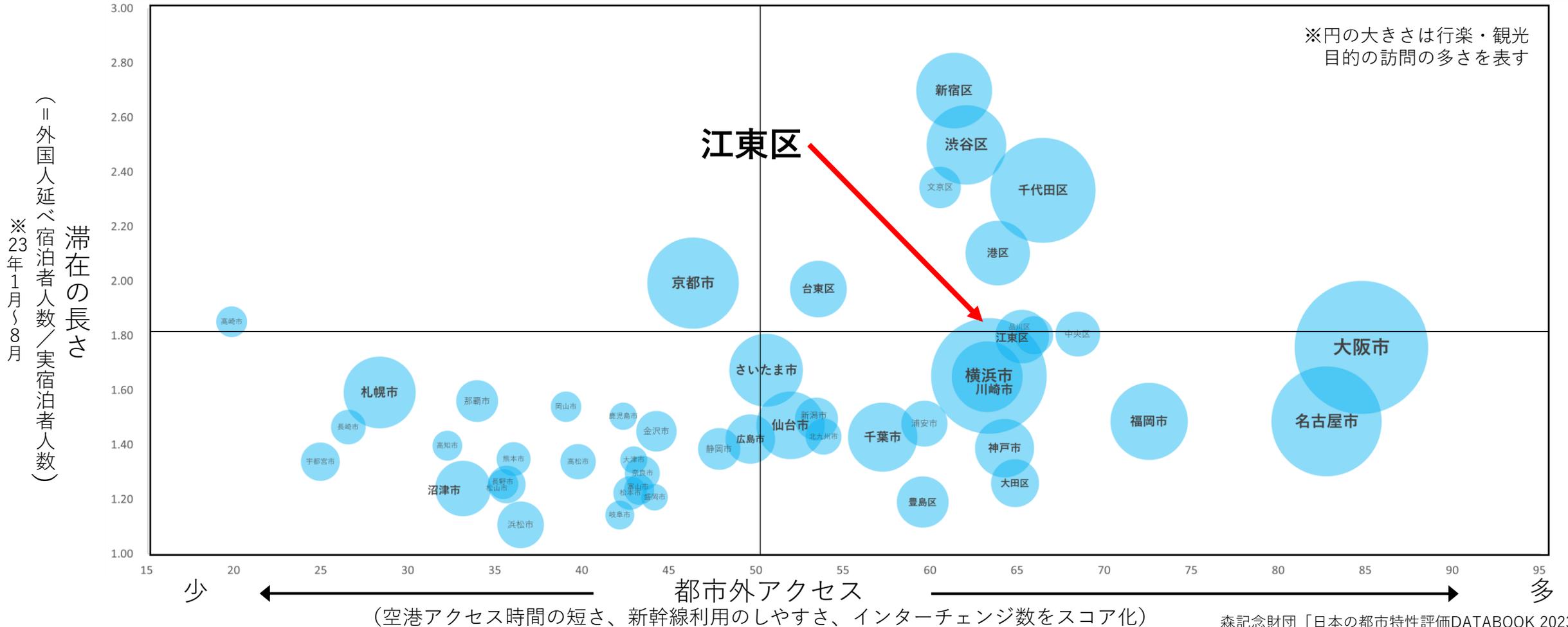
- ・Lv.3で適切にマネジメントしている地域はあるのか？
 - ・どのようにコントロールしているのか？
- を解明することが、日本におけるオーバーツーリズム対策で重要



(3) 地域特性

都市にも様々な特徴や性格があるため、さらに詳細に分類。人口17万人以上の都市、行楽・観光目的の訪問が多い都市を「滞在の長さ」と「都市外へのアクセス性」で分類した

- アクセス性×宿泊日数による都市タイプ4分類 -

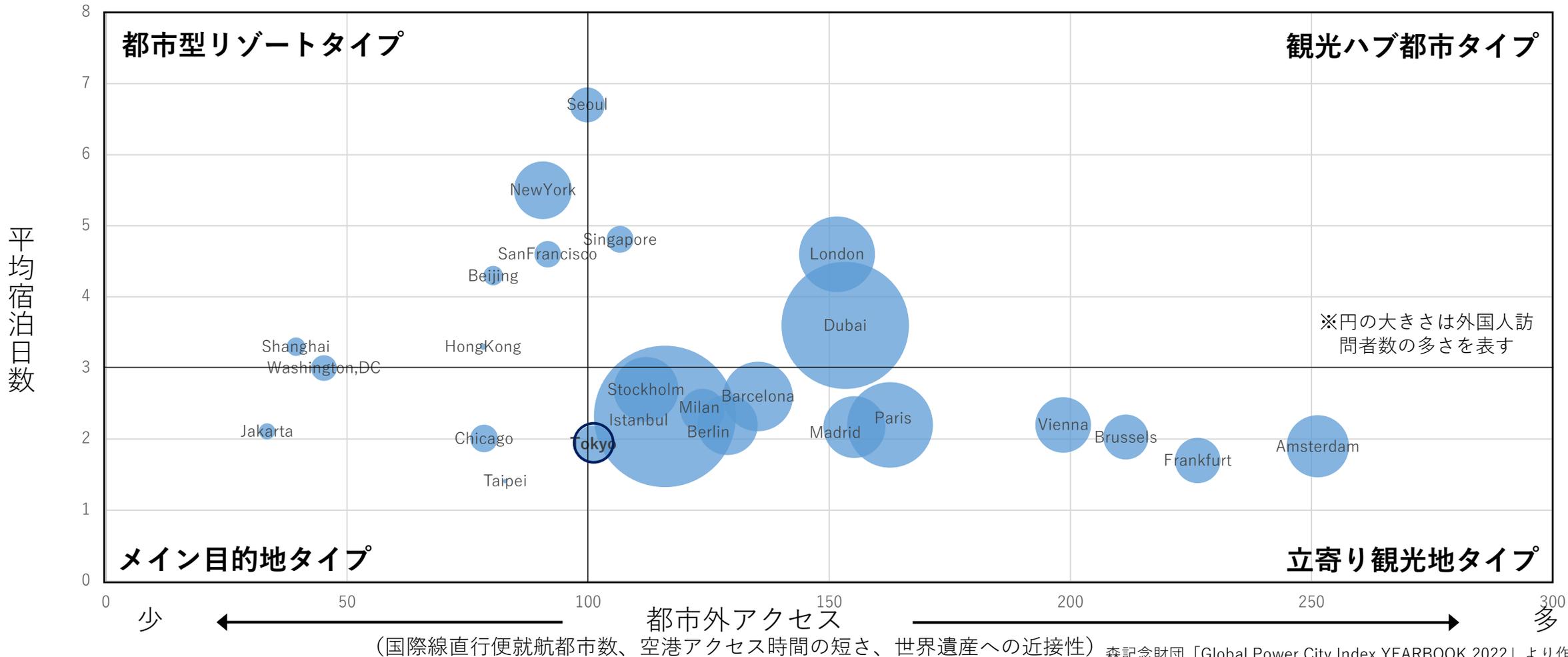


森記念財団「日本の都市特性評価DATABOOK 2023」
及び観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

参考) 海外都市のタイプ分類

類似する指標で世界の都市についても分類した。ロンドンやドバイ、シンガポール等は複数の国や都市を周遊する際の拠点となっている可能性がある

- アクセス性×宿泊日数による都市タイプ4分類 -



森記念財団「Global Power City Index YEARBOOK 2022」より作成
 ※平均宿泊日数はインターネットによるリサーチ結果

(3) 地域特性による課題の分類

タイプ		特徴	観光客の増加で懸念すべき影響	補足
都市型	観光ハブ都市タイプ 新宿区、渋谷区、台東区等	空港や新幹線、高速道路の利便性が高く、滞在期間が長い。周辺都市へのアクセスが良いために、広域周遊を行う際の拠点となる都市	連泊者が多いため安価な民泊施設等が好まれ、住民の居住エリアに観光客が増えることで、夜間の騒音やゴミによる住民とのトラブルや不動産価格の高騰を引き起こす	観光客は日中の時間帯は周辺の都市にある程度分散する
	立寄り観光地タイプ 名古屋、大阪市等	空港や新幹線、高速道路の利便性は高いが滞在期間が短い。国際空港に近い都市や広域周遊を行う際の中継地等、効率・利便性が良く立寄りやすい都市	日帰り客、もしくは移動のみの目的で滞在する観光客が多く、混雑の割に観光による収入を得られない。また都市内の公共交通の利便性が悪化する	都市として発展しており公共交通の利便性も高いため、観光客という要素のみが都市の物理的な許容域を超えることは考えにくい
	都市型リゾートタイプ 京都市等	都市外へのアクセス性は高くないが、滞在期間が長い。都市内に観光資源が豊富にあり、数日滞在して観光するのに適した都市	観光資源の豊富さ故に観光客の行動パターンが一定の場合が多く、ある時期/時間帯/場所に観光客が過度に集中し、分散・平準化が難しい	宿泊比率が高く、ある程度の需要予測及びコントロールが可能
	メイン目的地タイプ 札幌市、金沢市等	アクセス性は高くなく、滞在期間も短い。数カ所のメジャーな観光スポットを有しており、旅行におけるメイン目的地の一つとして来訪される都市	メインの観光地に過度な観光客が流入し、溢れかえることで周辺居住エリアへの侵入、ゴミのポイ捨て等が発生する。観光スポットが民間施設の場合は調整が困難	問題が発生する区域が比較的局所的であり関わるステークホルダーが少ないため、コミュニケーションが取りやすい
リゾート型		行楽や保養目的で開発された地域であり、経済的な観光依存度は高く、住民の多くは観光関連産業に従事する	観光産業に関係しない住民の生活、過度な開発行為による自然環境の悪化等	
アイランド型		船や飛行機による訪問となる島しょ部や、公共交通機関でのアクセスが難しい山間部の集落等、交通手段が限定され、人流が断続的となる観光地	各地域が有する独自のかつ特徴的な観光資源（自然環境、文化財、地域住民の生活・文化・風習等）に悪影響を及ぼす	観光客の出入りの管理が可能な場合もあるため、入場料金・入場制限等を設定しやすい
自然型		世界自然遺産や国立公園等、自然が作り出す美しい景観や、多様な生態系等を有する地	ゴミやし尿による自然環境の破壊や、野生動物をはじめとした周辺生物の生態系に悪影響を及ぼす	

2. 何が起きると“住民感情”を刺激する？

住民の生活の質と旅行者の体験の質

- 住民の声の例 -

- 風情ある観光地が観光客だらけになり、本来の良さを感じにくくなってしまふ
- 観光客向けに安価なホテルや商業施設や小売店が開業し、急激に町並みが変化してしまふ
- 飲食店の店頭で英語表記のメニュー表示や派手な看板が増え、落ち着いて入れるお店が減ってしまふ

不安

地域資源が観光という形で消費されることで、このままでは自分たちの地域の良さやアイデンティティが損なわれてしまうのでは、という懸念

→観光計画・まちづくりにおける住民を巻き込んだ議論が重要、あるべき街の姿を共有する

- 朝の通勤時、スーツケースを引く旅行者で駅は混雑し、順番に並ばず電車に乗り込む旅行者も
- 観光客が駅前の商店街を大声で騒ぎながら歩いたり、路上でお酒を飲む、中には立ち小便をする人も
- 近くに民泊があるのか、夜中に騒ぐ声が聞こえる
- 近所に最近「聖地」でバズったスポットがあり、家の中を覗き込まれて写真を撮られたり、庭に入り込まれたりする
- 買い物をして戻ってきたら自転車のカゴの中にゴミが捨てられていた

不快

より日常的なシーンにおいて、（主に異文化圏との）マナーやモラル、習慣等の違いから、住民が観光客に対して嫌悪感を抱く

→リーフレットやピクトグラムだけだと限界あり
住民まで巻き込んだ面的なマナー啓発が重要

- バスや電車が観光客で混雑して乗車出来ないことがある
- 食べ歩きをしながら店に入ってきて、展示している商品が汚れてしまうことがある
- SNSで人気の写真スポット、立ち入り禁止の場所に無理やり侵入して写真撮影する人を見かける
- 観光スポットにもなっている歴史的な石碑の裏に落書きが…

不利益

観光客の行動により住民に対して損害を発生させることや、従来通りの生活が送れなくなる程の負担が生じる等、実害が発生している状態

→ルール違反には厳正な対応を、問題解決のためにはハードへの投資を

※上記分類はじゃらんリサーチセンターによる

検証する仮説の一覧

多くの住民が観光に対してネガティブな感情を抱くとオーバーツーリズムに発展していくことが分かった
→では、何が住民感情の悪化を招くのか？

以下9つの仮説を提示、台東区と国内外の都市を定量比較しながら、検証を進める

1

観光客の増加度合い

観光客が急激に増加することで短期間で町の景観変化が進むなどして、住民のネガティブ感情が増大する

2

インバウンドのインパクト

外国人観光客が増えることで文化やモラル・マナーの違いを受け入れられない住民が出てくる

3

日帰り観光客による影響

日帰り観光客が多い観光地は日中の公共交通機関や街路が混雑し、住民の通勤時間にもバッティングする

4

交通インフラの脆弱性

都市内の交通インフラが弱いと観光客が滞留し、地域住民の生活行動に影響を及ぼす

5

都市の清潔度とのギャップ

日本の都市が清潔なために、ゴミが散らかっていると気になってしまう

6

居住エリアにおける民泊増加

昼間人口が少ない地域（＝ベッドタウン）に民泊施設が増加すると近隣で生活する住民の感情を刺激する

7

ナイトライフの楽しみ方

夜間も楽しめる観光地では、ホテルのキャパシティが少ないと治安の悪化等、住民の感情を刺激する

8

居住歴による受入許容度の変化

居住年数が長いほど、昔ながらの景観が失われ、住み慣れた町が変わってしまうことに抵抗を感じる

9

都市における観光依存度

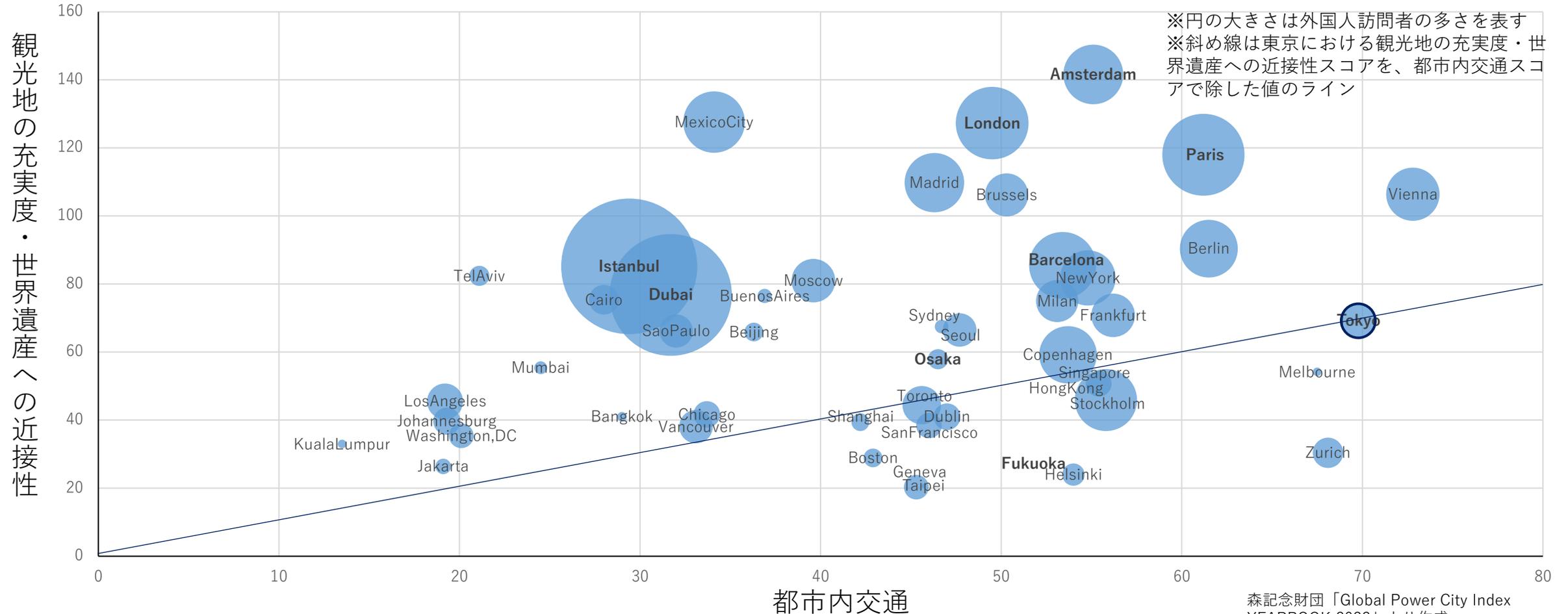
観光以外の文化的資源・施設の数が少ないと特定の観光スポットへの依存度が高くなり、住民感情が悪化する

仮説4：交通インフラの脆弱性 - 海外都市比較 -

都市内の交通インフラが弱いと観光客が滞留し、地域住民の生活行動に影響を及ぼす

→前頁と似たような指標を用い、海外都市と比較（日本の都市は東京、大阪、福岡）

表の左上にある都市は域内の観光を行う際の交通手段が限られるため、混雑が発生しやすいと考えられる
特に、ドバイやイスタンブールでは上記の状態であることが推測できる



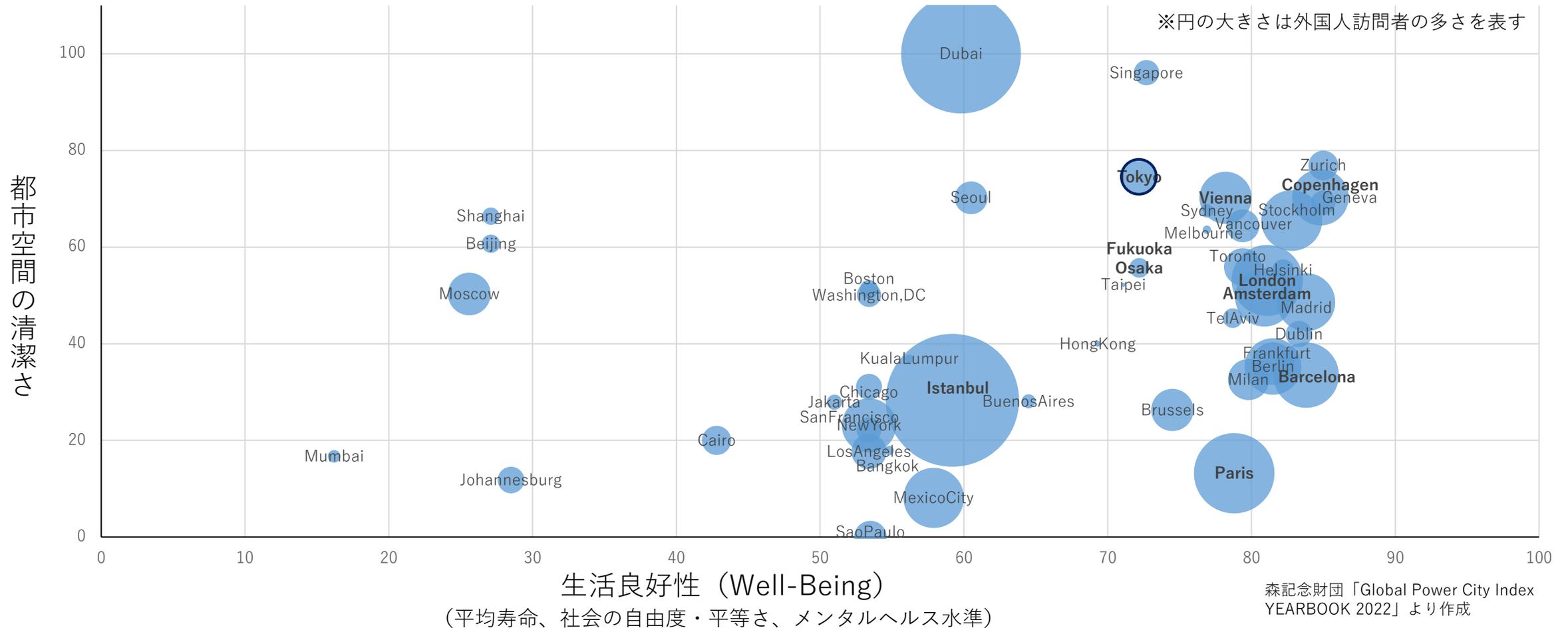
森記念財団「Global Power City Index YEARBOOK 2022」より作成



仮説5：都市の清潔度とのギャップ

日本の都市が清潔なために、ゴミが散らかっていると気になってしまう

→都市空間の清潔さと生活良好性（平均寿命、社会の自由度・平等さ、メンタルヘルス水準）で各都市をプロット
東京はかなり清潔さのスコアが高い。東京はウィーンやコペンハーゲンよりウェルビーイングスコアが低いため、観光客のゴミ問題に対する許容度が低い可能性もある

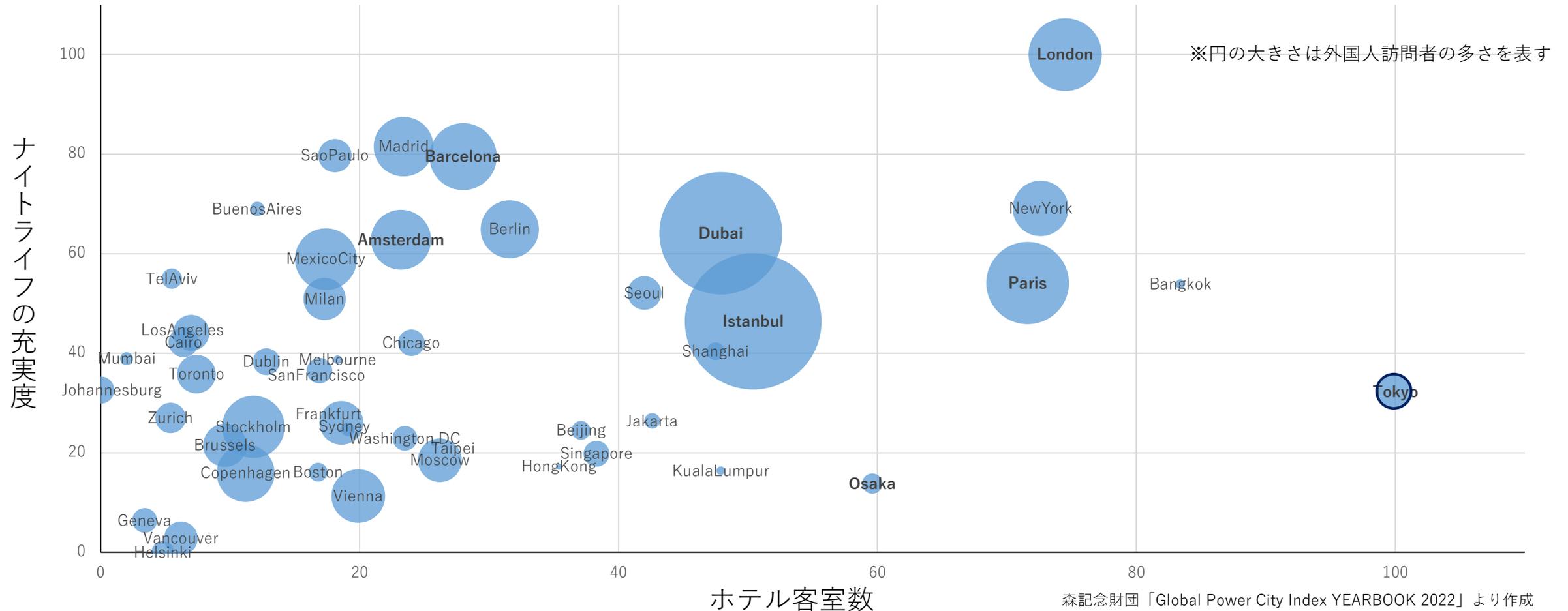


仮説7：ナイトライフの楽しみ方

夜間も楽しめる観光地では、ホテルのキャパシティが少ないと治安の悪化等、住民の感情を刺激する

→ナイトライフの充実度とホテル客室数を比較すると、バルセロナやアムステルダムはナイトスポットが充実しているのに対しホテル客室が少ない。マドリードやベルリン、メキシコシティ、サンパウロ等も同様の状況

東京や大阪はホテル客室数が多く、ナイトライフの充実度は比較的低いため、夜間も楽しめる観光地という性質からの治安悪化や住民のネガティブな感情にはつながりにくいと考えられる

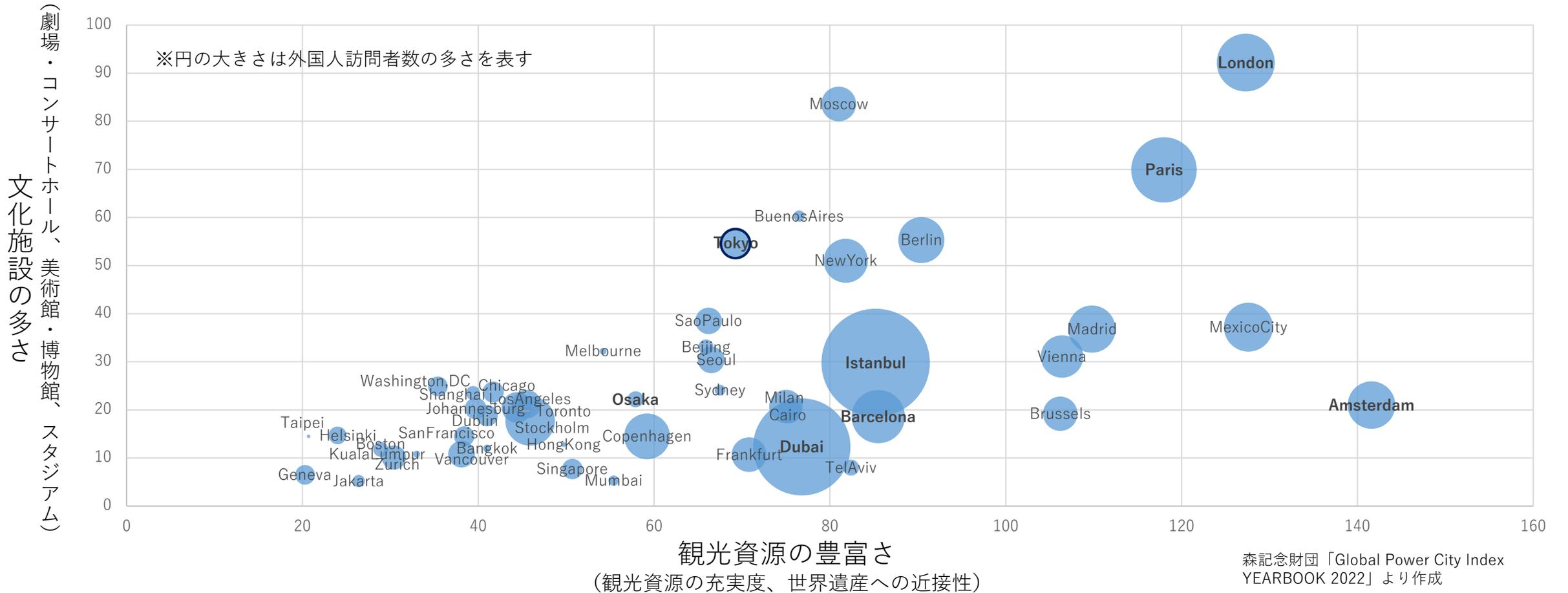


森記念財団「Global Power City Index YEARBOOK 2022」より作成

仮説9：都市における観光依存度

観光以外の文化的資源・施設の数が少ないと特定の観光スポットへの依存度が高くなり、住民感情が悪化する

→ロンドンやパリ等はいわゆる世界遺産や歴史保護地区等の観光資源だけでなく劇場や美術館等の文化施設が豊富にあるため、観光客が文化施設にも分散される可能性があり、住民の意識が観光資源やそのエリアでの混雑ばかりに向かないのでは？
一方バルセロナやアムステルダムは、観光資源の豊富さに対して文化施設が少なく、観光客による文化資源への来訪が集中



検証結果のまとめ

仮説を検証した結果は以下の通り。非常に多くの観点から観光客の増加による影響が顕在化する可能性があるため、自地域の現状をモニタリングすることに加え、住民が具体的に何にネガティブ感情を抱いているか、自治体の観光セクションまたはDMOが地域に入り込み、声を拾い続けることが重要。

	仮説	関連度	考察
1	観光客の増加度合い 観光客が急激に増加することで短期間で町の景観変化が進むなどして、住民のネガティブ感情が増大する	☆☆☆	宿泊・日帰りの10年間の増減率を見ても、国内におけるオーバーツーリズム事例との相関は見られない。台東区は、今回比較に使用した観光庁の宿泊旅行統計調査上の数値では、増加率は中位程度であった。
2	インバウンドのインパクト 外国人観光客が増えることで文化やモラル・マナーの違いを受け入れられない住民が出てくる	☆☆☆	オーバーツーリズムが問題となっている地域は、外国人宿泊者の10年間の増加が大きい場合が多い。台東区は、今回比較に使用した観光庁の宿泊旅行統計調査上の数値では、外国人宿泊者は増えているものの、全体の宿泊者が大きく伸びていなかった。
3	日帰り観光客による影響 日帰り観光客が多い観光地は日中の公共交通機関や街路が混雑し、住民の通勤時間にもバッティングする	☆☆☆	都市外からのアクセス性を上回る観光客が来訪すると、公共交通機関の混雑が発生する。台東区に到達するまでに混雑に遭遇する可能性が高い。
4	交通インフラの脆弱性 都市内の交通インフラが弱いと観光客が滞留し、地域住民の生活行動に影響を及ぼす	☆☆☆	都市内の観光スポットが多いのに対して公共交通機関が充実していないと、オーバーツーリズムとなる可能性がある。台東区は観光資源の数が多く、移動手段も豊富にあると言える。
5	都市の清潔度とのギャップ 日本の都市が清潔なために、ゴミが散らかっていると気になってしまう	☆☆☆	バルセロナやアムステルダムは日本よりも都市空間の清潔度合いが低いため、観光客によるゴミ問題はあまり気にならない可能性がある。清潔度が高くても生活良好性が高ければ住民が受け入れる可能性も？
6	居住エリアにおける民泊増加 昼間人口が少ない地域（＝ベッドタウン）に民泊施設が増加すると近隣で生活する住民の感情を刺激する	☆☆☆	昼間人口比率が低い鎌倉市のような地域で民泊施設が増えると住民とのトラブルが問題になる可能性がある。一方、台東区のような昼間人口比率が高い地域はホテルが建ちやすく、民泊自体は多いが比率は相対的に低くなるため、関連性は見られない。
7	ナイトライフの楽しみ方 夜間も楽しめる観光地では、ホテルのキャパシティが少ないと治安の悪化等、住民の感情を刺激する	☆☆☆	ナイトライフが充実しているもののホテル等観光客を受け入れる施設が少ないと、観光客が夜中まで飲酒やパーティーをする可能性がある。また、そもそも若者のグループ旅行等が増加する可能性もある。
8	居住歴による受入許容度の変化 居住年数が長いほど、昔ながらの景観が失われ、住み慣れた町が変わってしまうことに抵抗を感じる	☆☆☆	その地域への居住歴が長いほど、観光に対して良い印象を持たない可能性が高い。その際に来訪の多さはあまり関係がない。台東区は全国的にも居住歴が短い。
9	都市における観光依存度 観光以外の文化的資源・施設の数が少ないと特定の観光スポットへの依存度が高くなり、住民感情が悪化する	☆☆☆	観光資源が多い割に劇場・美術館等その他の文化施設が少ない地域ではオーバーツーリズムが問題に。東京や大阪は観光資源の数に対しては文化施設が多い。

※上記考察はじゃらんリサーチセンターによる

3. ローカルの視点：台東区における検証事例

台東区ヒートマップ分析

- ・ 台東区における人流データより、ヒートマップを作成。2022年10月以降の1年間について、区外居住者のデータを表示している
- ・ 都内有数のターミナル駅である上野駅は人流量が非常に多く、一極集中した分布になるため、除外して作成した
- ・ 日暮里駅周辺、鶯谷駅周辺、東武／東京メトロ浅草駅周辺、浅草六区周辺、浅草橋駅周辺に人流が多くなっており、特に浅草は広範囲に亘って混雑が広がっているため、浅草エリアの住民の観光許容度が低くなっている可能性がある

●台東区の人流ヒートマップ

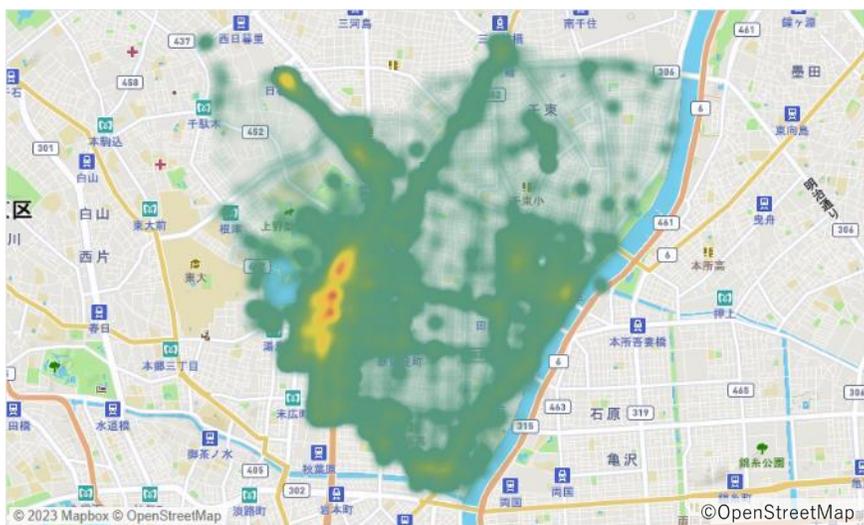
時期：2022/10～2023/9

時間帯：すべて

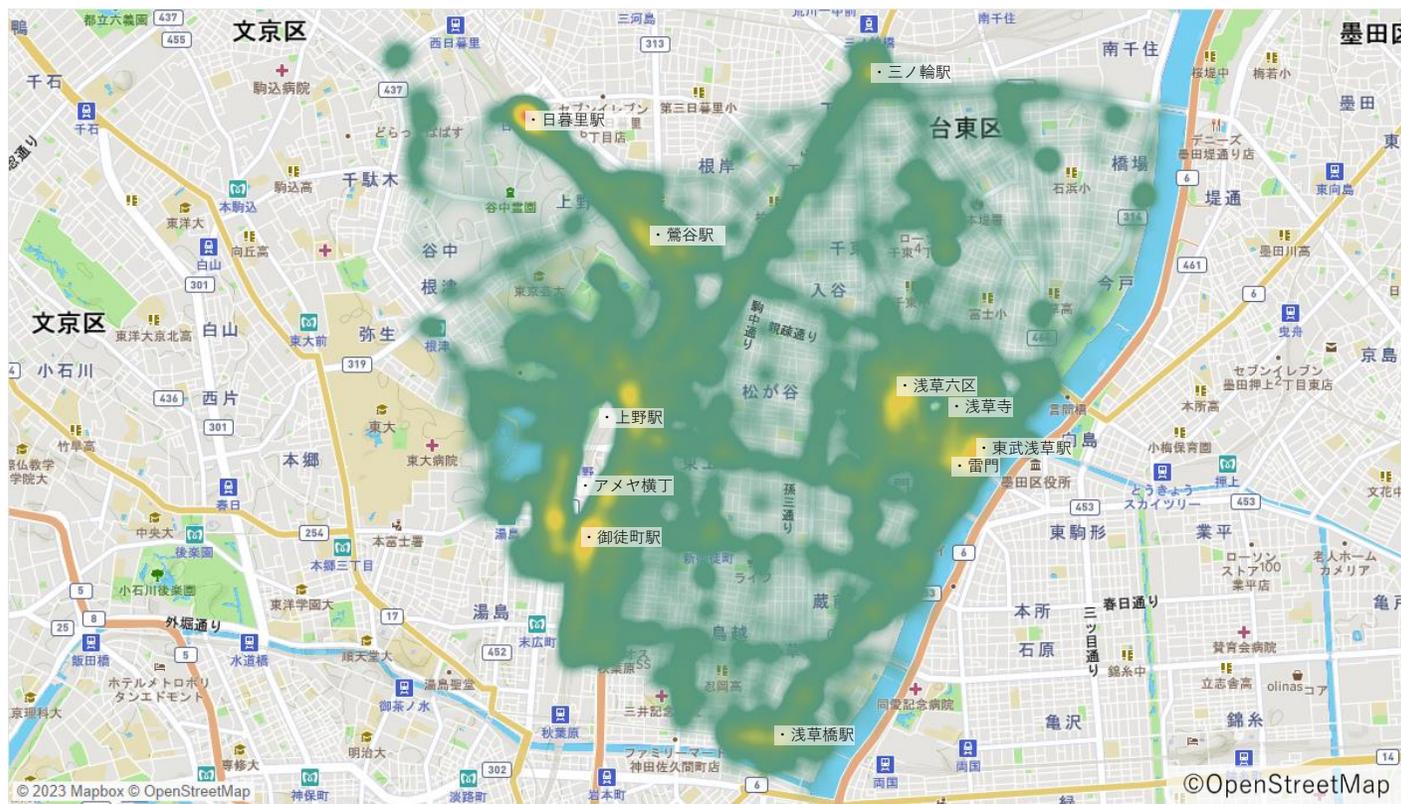
居住地：区外居住者

平日／休日：すべて

※上野駅周辺を含む区内全域



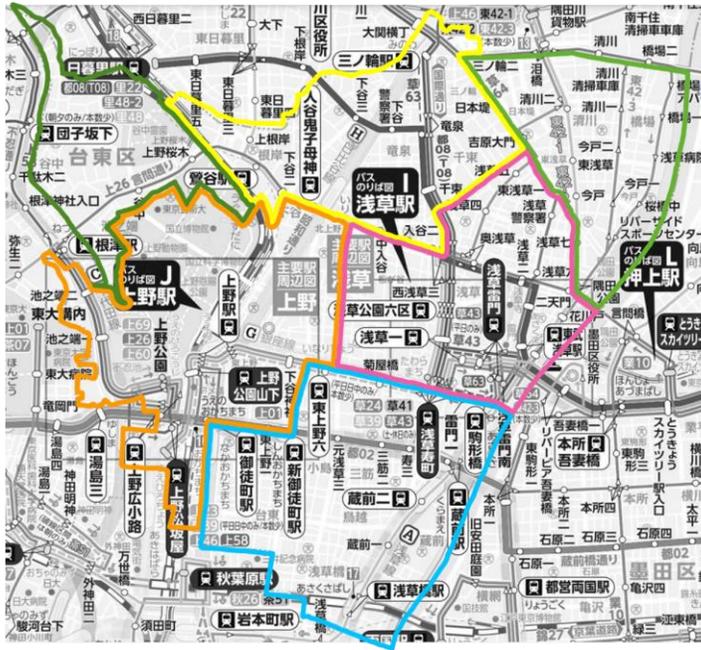
※上野駅周辺を除く区内全域



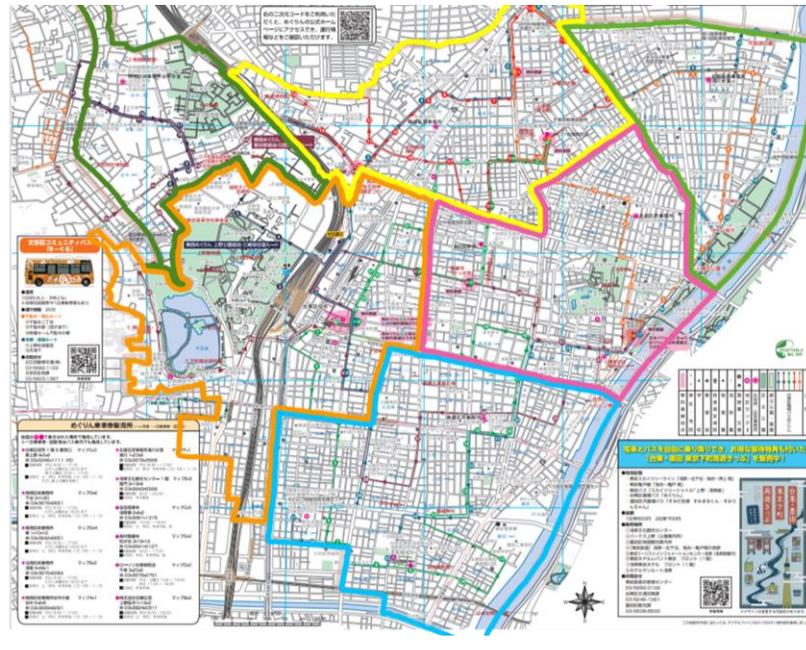
台東区ヒートマップ分析 - バスルートとの比較 -

- 台東区内を運行する2種類23路線のバス路線図を表示
- 北部エリア(右上の緑線)は他地域に比べバス停・路線が少なく、またエリア内に電車へ乗り換え可能なバス停は無く、電車に乗るためには南千住駅、三ノ輪駅、浅草駅を利用することになる
- 区外居住者の平日通勤時間帯のヒートマップをみると、三ノ輪駅、浅草駅では混雑が発生しており、観光客と住民の生活導線がバッティングしている可能性がある
※南千住駅は荒川区のためヒートマップ表示対象範囲外

- 都営バス路線図 -



- 台東区循環バス「めぐりん」路線図 -



- 平日通勤時間帯のヒートマップ -



4. 観光関係者は現状をどう捉えているか？

たびたびオーバーツーリズムに関する報道が注目を集める

“コンビニ富士山”、バルセロナの抗議運動（水鉄砲）、二重価格問題
時には地域や行政が「ちゃんと対応できていない」と批判の対象になることも



<https://www.yomiuri.co.jp/national/20240521-OYT1T50050/>



<https://www.bbc.com/japanese/articles/cxx2jppkg350>

解説
現在の入城料 国籍問わず・18歳以上
1000円 約7ドル

外国人観光客 **30ドル**
現在の約4倍に

姫路市民 **5ドル**

清元秀泰姫路市長 おとこの会議にて

姫路城 訪日客だけ入城料4倍?

TBS NEWS DIG

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/1238802?page=3>

JRCで初めて業界アンケートを実施

- ▶ その後もオーバーツーリズムは注目を集める
→ “コンビニ富士山”、バルセロナの抗議運動（水鉄砲）、二重価格問題
- ▶ オーバーツーリズムに対する課題意識や対策について、観光業界としてどのように捉えているか、困り事はあるか、などを調べるため、アンケート調査を実施した

調査名称 「観光地のオーバーツーリズムおよび分散・平準化対策に関する現状調査」

調査目的 観光行政・観光関連事業者の生活エリア・事業・業務エリアについて、旅行者による混雑状況や地域への影響度合いを把握し、オーバーツーリズム問題に対する意識や対応策の実施意向・実施状況を把握する

調査方法 じゃらんリサーチセンター観光ネットワーク会員（以下、JKN会員）に向けたインターネット調査

※JKN会員にメールでアンケートを依頼し、専用のweb画面で回答していただく形式

調査対象 JKN会員（割付回収なし）

回答者の所属先別の人数は右の通り

	(人)	(%)
行政・計	390	40.8
都道府県庁	76	7.9
市区町村	159	16.6
観光協会・DMO	107	11.2
その他	48	5.0
民間企業・計	319	33.4
宿泊施設・計	151	15.8
その他	96	10.0
合計	956	100.0

重視されるのはマナー対策、実施が難しいのは公共交通などのハード対策

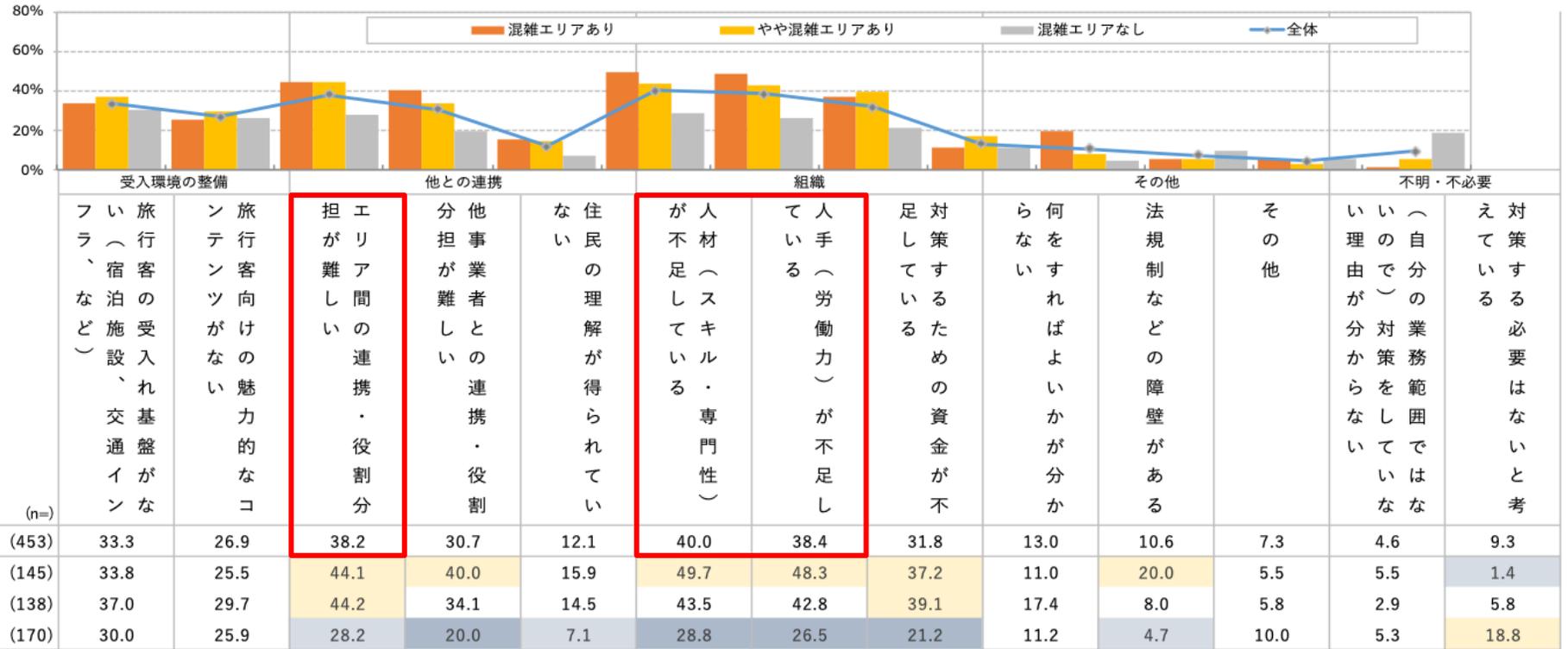
必要な対策と実施が難しい対策

※カテゴリごとに「Q11 必要な対策」の降順並び替え (%)

		旅行者へのマナー啓発			ハード・仕組みの整備								住民との連携					その他	特											
		イン パ ウ ン ド へ の マ ナー 啓 発 (多 言 語	旅 行 者 へ の マ ナー 啓 発 (情 報 発 信	設 置 な ど	合 共 交 通 の 輸 送 力 増 強 (エ ア 等	公 共 交 通 の 混 雑 和 (交 通 手 段 の 整 化	M a S や 配 車 ア プ リ 導 入 な ど	備 、 運 賃 支 払 の キ ャ ッ シ ユ レ ス 化	公 共 交 通 の 混 雑 和 (交 通 手 段 の 整 化	電 柱 環 境 の 充 実 (道 路 ・ 歩 道 整 備	受 入 環 境 の 充 実 (道 路 ・ 歩 道 整 備	雑 運 賃 ・ 料 金 の 重 価 格 の 設 定 (宿 泊 税	運 賃 ・ 料 金 の 重 価 格 の 設 定 (宿 泊 税	制 、 交 通 パ ー ク ア イ ラ ン ド 等	交 通 渋 滞 の 解 消 (自 家 用 車 の 入 域 規	制 、 入 域 交 通 の 管 理 ・ 規 制 (訪 問 者 数 の	入 域 交 通 の 管 理 ・ 規 制 (訪 問 者 数 の	手 ぶ ら 観 光 の 推 進 ・ 仕 組 み づ く り	づ く り	へ の 説 明 、 イ ン パ ウ ン ド メ リ ッ ト の 霧 囲 住 民	調 査 ・ 把 握	飲 食 店 等 商 業 施 設 に お け る 混 雑 状 況 の	話 し 合 い	住 民 ・ 事 業 者 な ど の 地 域 関 係 者 同 士 の	析 住 民 の 生 活 に 関 す る デ ー タ の 検 証 ・ 分	住 民 の 生 活 に 関 す る デ ー タ の 検 証 ・ 分	フ ォ ー ム や 見 聞 き の 設 置	住 民 の 意 見 を 投 稿 す る プ ラ ツ ト	そ の 他	特 に な い
全体	Q11_必要な対策	(956)	54.8	50.5	28.2	40.2	39.4	37.2	36.8	25.8	24.3	23.6	37.1	25.9	23.6	21.7	17.7	5.2	8.5											
	Q12_最も必要な対策	(956)	12.2	9.6	2.5	9.1	8.2	7.6	9.1	4.1	4.9	1.9	9.9	1.5	4.8	2.0	1.0	3.0												
	Q13_実施が難しい対策	(956)	12.6	8.9	7.0	17.9	10.7	13.4	9.8	11.6	7.7	3.1	9.9	3.3	6.0	3.1	2.0	1.4	21.2											
実施障壁率 (= 【Q13実施が難しい対策】 ÷ 【Q11必要な対策】		(956)	22.9	17.6	24.8	44.5	27.1	36.0	26.7	44.9	31.9	13.3	26.8	12.9	25.2	14.5	11.2	26.0												

n=30以上の場合
【順位】 各設問項目において
50.0 1位
50.0 2～3位
50.0 4～5位

分散対策が進まない理由



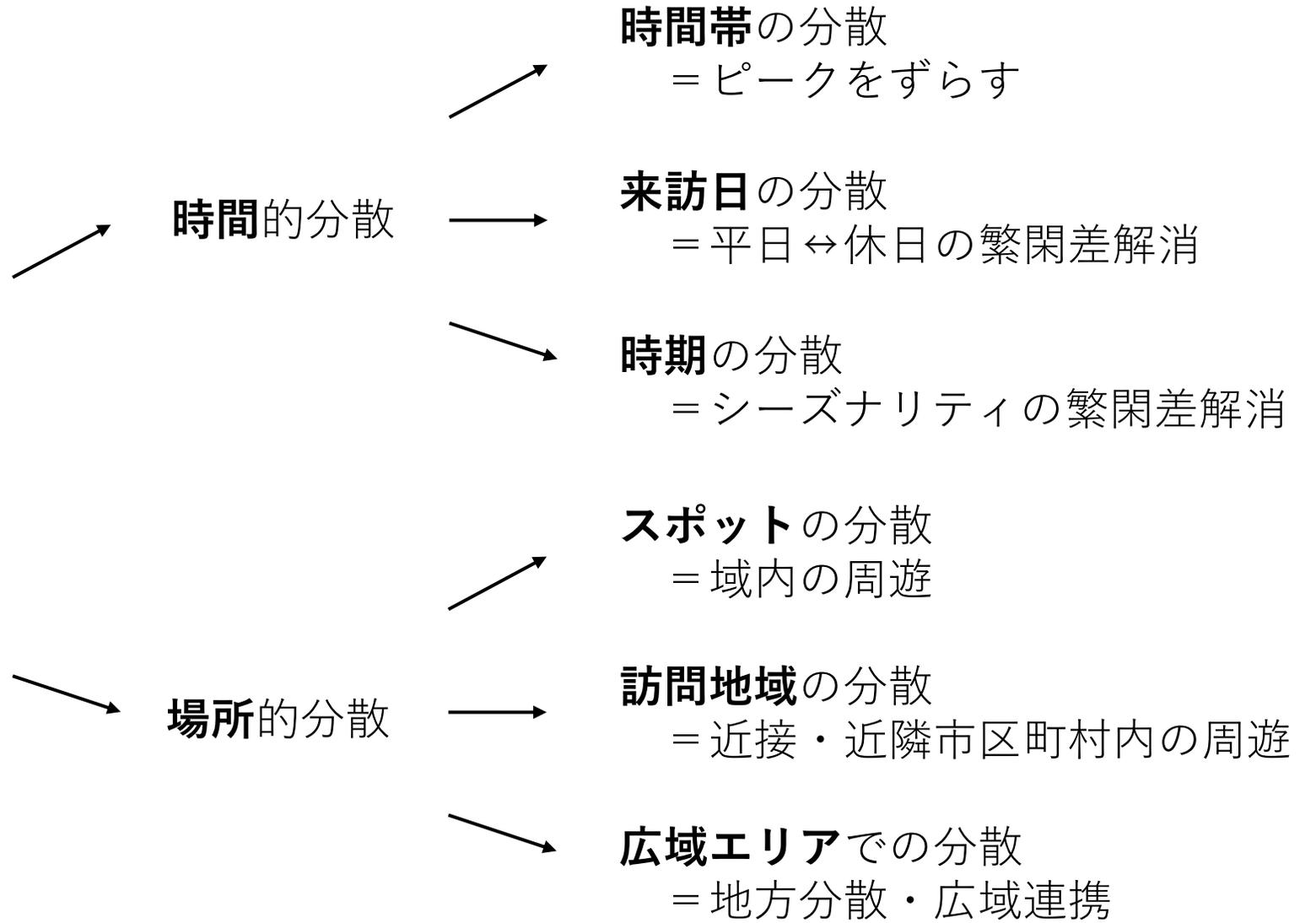
n=30以上の場合
 [比率の差] 全体との差
 +10 ポイント
 +5 ポイント
 -5 ポイント
 -10 ポイント

(n=)		受入環境の整備	他との連携	組織	その他	不明・不必要
全体	(453)	33.3	26.9	38.2	30.7	12.1
自地域の混雑度別	混雑エリアあり (145)	33.8	25.5	44.1	40.0	15.9
	やや混雑エリアあり (138)	37.0	29.7	44.2	34.1	14.5
	混雑エリアなし (170)	30.0	25.9	28.2	20.0	7.1
全体 (自地域内に混雑エリアがある人)	(283)	35.3	27.6	44.2	37.1	15.2
自地域の混雑エリア別	北海道・東北 (41)	39.0	26.8	46.3	26.8	7.3
	関東 (74)	28.4	21.6	41.9	35.1	17.6
	中部 (62)	33.9	41.9	46.8	46.8	14.5
	関西 (42)	47.6	23.8	52.4	45.2	31.0
	中国・四国 (25)	36.0	28.0	40.0	32.0	8.0
九州・沖縄 (39)	33.3	20.5	35.9	30.8	7.7	

※n=30未満は参考値

分散対策の方向性

過度な一極集中を避けるため、
観光客の“**分散・平準化**”
対策が必要



マナー対策の事例：宮島清掃活動（広島・宮島）

- ▶ 広島・宮島にて、事業者数社が共同でゴミ拾い活動を実施
→ 落ちているゴミの回収 + ゴミを持っている観光客に声かけ
- ▶ ゴミ問題だけでなく、対面で接することで
マナー意識向上にも効果的
- ▶ 現在は事業者が共同で費用を負担
→ 宮島での活動に貢献したい！と積極的に
関わってくれる人も多い

**ゴミ箱設置・リーフレット作成など仕組みの
整備に加えて、人が介在することでより効果
を発揮する**



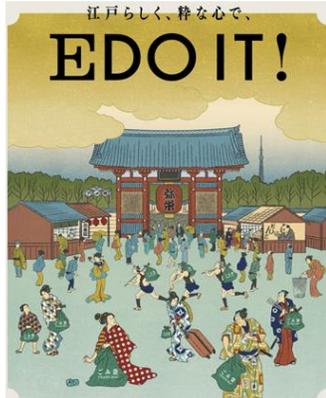
都内の事例(台東区)

概要

『EDO IT!』をスローガンに、江戸らしくストレートに「DO IT! (やろう)」という呼びかけの意味を込め、江戸の浅草地区を浮世絵タッチで表現したビジュアルとともに、観光マナーを知ること・守ることを「良きおこない」として楽しんでいただけるような啓発活動を推進。

実施内容

- ・江戸をテーマとしたコスチュームを着たスタッフが移動式ごみ箱をもって浅草地区を巡回、観光客と一緒に記念撮影したくなるような楽しいマナー啓発を実施
- ・楽しみながらゲーム感覚で参加できるごみ拾いイベントの実施。ごみのポイ捨て問題への意識を醸成しながら、浅草地区の美化を推進
- ・マナー啓発パンフレットや持ち帰り用ごみ袋の配布、二次元コードで読み取れるトイレ・公衆喫煙所の案内マップ（5か国語対応）の提供
- ・ごみの組成調査・分析を行う事により、ごみの多い場所や量、組成を明確にすることで、今後のポイ捨てによるごみ対策への活用 など



ウェブページ(スマートフォン)



京都を訪れる観光客の地域分散を目的に、京都府とその周辺エリアである福井県・兵庫県・三重県が一体となり、ガストロノミーツーリズムの広域展開と周遊促進に取り組んでいます。

「御食国（みけつくに）」は、飛鳥・奈良時代に皇室や朝廷に食材を献上していた若狭・淡路・志摩の3つの地域の総称で、今も豊かな食文化を誇る食材の宝庫です。この取り組みでは、共通の歴史を生かしたストーリーにより共通ブランドを強化。京都からの観光モデルルートとして共通宿泊プランも、『じゃらんnet』で紹介しています。



Royal Food of Japan

若狭／淡路島／伊勢志摩～京都

御食国

MIKETSUKUNI

歴史に愛された美味がある。

古来より恵み豊かな食材を献上してきた
3つの御食国、淡路、若狭、志摩。
そこには、京都の長い歴史とともに育まれた美味がある。

The graphic features a central text area with a white background and a subtle pattern, surrounded by four diamond-shaped images: a large lobster, a plate of dumplings, a piece of fish, and a skewer of meat over a flame.

ご参照URL：

<https://www.jalan.net/jalan/doc/news/button/1710887201/>

5. 今日のまとめ

まとめ

- ✓ オーバーツーリズムという言葉自体に大きな意味はなく、使用することでネガティブ・キャンペーンになり得る。
 - ✓ ただし、多くの観光客が押し寄せることにより様々な問題が起きていること自体は事実であり、対策していく必要がある。
(= **持続可能な観光地域づくり**)
 - ✓ ミクロ（ローカル）とマクロ（広域的）それぞれの視点で課題を考えること、かつ **ロマン**（情緒的価値を忘れずに）と **ソロバン**（データ・ドリブンに）で考える
 - ✓ 今後のキーワードは **地方分散** と **広域連携**。とはいえ地方が観光客誘致を頑張るだけでなく、混雑地域側がどのように分散させるか、考えることが重要。
 - ✓ 東京および近隣地域を含めて広域として捉え、大きな観光の流れや理想の過ごし方のイメージを作り、定着させていくことが大切。
- 例：東京は基本1週間滞在、そのうち2日は日帰りで地方に、など
その際の候補となりうる地域をリストアップし、旅行者にどのタイミングでどのように検討してもらうか、プロセスを構築していく。